

「新しい時代の社会教育を、体験活動から」プロジェクト



地域名 那須塩原市
 パートナー名 那須塩原市教育部
 生涯学習課

17班 コミュニティデザイン学科 長岡慎汰郎 長瀬みなみ 水野悠生
 建築都市デザイン学科 五十嵐暖 上本真理子
 社会基盤デザイン学科 渡邊葵生
 グループ指導教員 大嶽陽徳

1. 背景

那須塩原市生涯学習課は、令和5年度から社会教育事業「那須塩原子どもカレッジ」を開始した。この事業は、コロナ禍等の影響で減少した人との関わりや多様な体験の機会を補うものである。また、那須塩原市が賛同する「子供の体験活動推進宣言」にも沿うものである。

※「子供の体験活動推進宣言」とは……
 文部科学省が公表した、企業等と連携した子どものリアルな体験活動を推進する宣言。

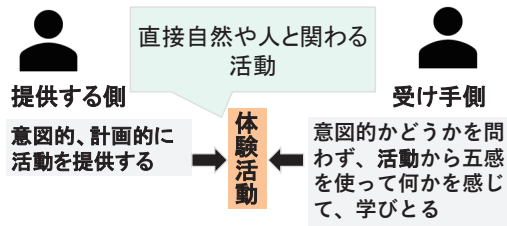
2. 目的

○令和7年度以降の子どもカレッジに向けた課題抽出

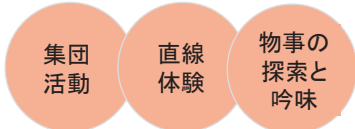
- ・理想の体験活動と現実の事業のギャップから、子どもカレッジの課題を見つける。
- ・庁外の立場で企画・運営を経験し、次年度以降の課題を提案する。

3. 事前調査

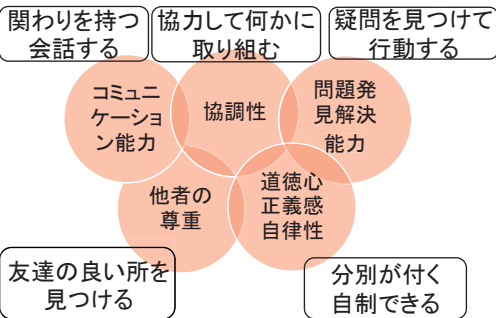
3-1 体験活動とは



3-2 体験活動の意義



3-3 体験活動の理想



6. 課題抽出・提案

6-1 継続性による成長について(運営体制の課題抽出)

- ①課題
 ・1回の体験活動では理想に掲げた能力すべての成長を意図することが困難である。
- ②改善の方向
 ・「那須塩原子どもカレッジ」の参加者に、年間の体験活動へ、**継続して参加してもらう。**
- ③改善に向けた提案
 ・参加者や参加者の保護者にとって、**参加しやすい(させやすい)条件**を整える。(例: 開始時間を遅らせる、学校行事との同日開催を避ける)
 ・連続して出席した参加者に対し、**特典等**を与える。
 (例: 学生企画に先立つ座談会(右記)への出席)

6-2 プログラム内容による成長について(体験企画の課題抽出)

- ①課題
 ・～第3回: プログラム内容と**体験活動の意義や理想**の間でミスマッチが生じた。
 ・第4回: プログラム内容と**参加者の興味関心**の間でミスマッチが生じた。
- ②改善の方向
 ・意義に**適い、学びのある企画**となることを意図しながら、**子どもの関心や楽しみ**に沿った要素も取り入れる。
- ③改善に向けた提案
 ・第3回までの実施主体と**目的意識の統一**を密にし、事業の意義やその年のテーマに沿った内容となるよう連携する。
 ・第4回企画について、学生や参加者による座談会を開催し、**子ども達のニーズを調査**する。

4. 方法

4-1 子どもカレッジの企画に参加

- ・第1回 オリジナルのピザ作り体験
 @ボーイスカウト日本連盟那須野営場
- ・第2回 沢遊び体験&クワガタ教室
 @箱の森プレイパーク
- ・第3回 自然観察会、バーベキュー
 @奥那須大正村 幸乃湯温泉

* 振り返り方法の提案 -ポイント制での実施-



4-2 第4回子どもカレッジの企画・運営

企画内容 「理想の那須塩原駅前をつくらう」
 子どもたちが考える理想のまちを制作
 <協調性>を重視した企画内容の設定

<体験活動の理想を含むプログラム>



図1: 話し合い中の様子 図2: 制作中の様子 図3: 配置時の様子
 <コミュニケーション能力> <道徳心> <問題解決>



図4: 昼食時の様子 図5, 6: 完成模型写真

* ポイント制 <他者の尊重>
 友達の良いところを1つ見つけると1ポイント
 1ポイントにつき1つの飾り(木・車)をプレゼント
 →友達の良いところを見つけるよう誘導

5. 分析

5-1 全4回の企画評価

表1: 全4回の企画評価

	他者の尊重	問題発見 問題解決	協調性	コミュニケ ーション 能力	道徳心 正義感 自律性
第1回	△	—	○	△	△
第2回	○	—	×	△	○
第3回	◎	○	△	○	○
第4回	◎	○	△	△	○

○、◎、◎: 子どもたちの能力が発揮できていた
 △: 能力の発揮はまちまち(活動によって差がある)
 ×: 発揮できていなかった
 —: そもそも発揮できる機会がなかった
 (授業型の活動であるため、などの理由で)

我々は子どもカレッジ全4回の活動を、事前調査に基づいて表1の通り評価した。

他者の尊重、コミュニケーション能力などは、同じメンバーで「**継続的**」に活動することで成長が望めることが分かった。

一方で問題解決能力、協調性などは「**プログラム内容**」にそれぞれの能力が発揮できる活動が組み込まれていることが重要であることも分かった。

5-2 参加者へのアンケート結果(回答数18)

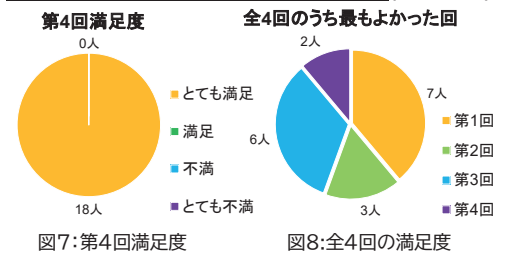
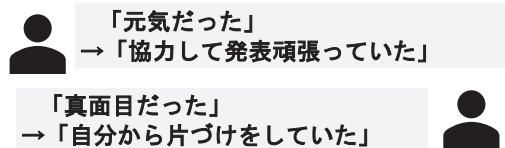


図7: 第4回満足度 図8: 全4回の満足度
 第4回の満足度に対し、全4回を比較すると食をメインとした第1回、第3回が参加者に好まれる結果となった。

5-3 振り返り

今年度の子どもカレッジでは「友達のいいところを見つけられる自分になる」という目標のもと、活動後に友達のいいところをスクラップブックに書く、振り返りの時間を設けた。



回数を重ねるごとに「どの場面で、どんなところが良かったのか」をより具体的にみつけることができるようになっていった。これは5-1「他者の尊重」の評価にもつながる。